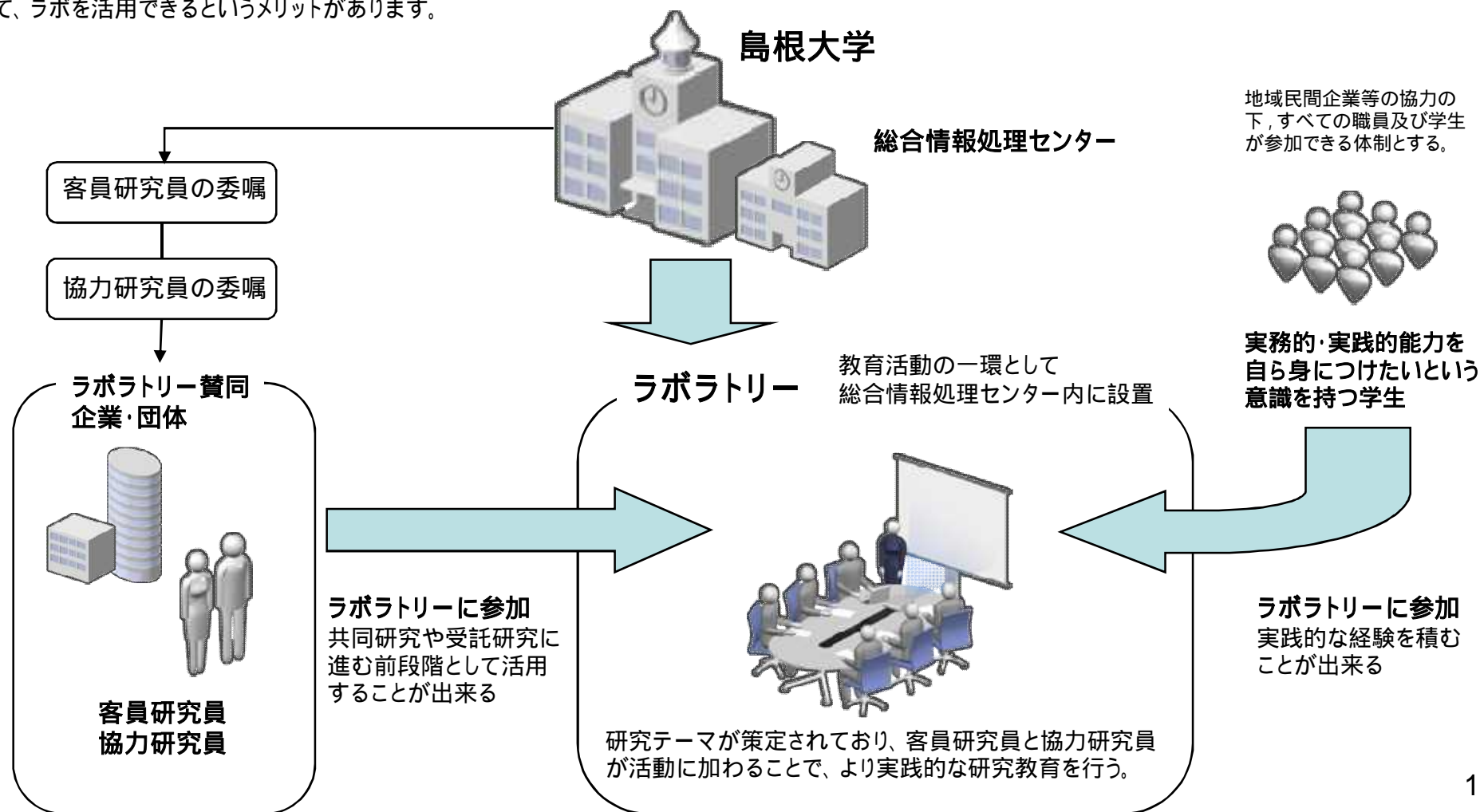


島根大学総合情報処理センター「実務的システム開発ラボラトリー」の概要

実務的システム開発ラボラトリーとは

島根大学が総合情報処理センターに設置したもので、学生や教職員のほかに、学外から客員研究員及び協力研究員（「島根大学総合情報処理センターの客員研究員及び協力研究員に関する規則」本資料3ページ参照）を招き、協力して実社会と結びついた実践的な研究教育を行う場所です。

大学と企業の新たな連携の形であり、大学には学生にとって魅力的な大学になるというメリットが、企業には共同研究や受託研究に進む前段階として、ラボを活用できるというメリットがあります。



実務的システム開発ラボラトリー

「MediaFLO技術の実証実験による、新技術・新コンテンツの開発、新ビジネスモデルの構築」 協力研究員分担図



島根大学のコンテンツ(講義、研究情報など)
山陰地域の文化・観光資源など

情報配信・実証実験



・デジタルコンテンツ市場におけるマーケティング、
ビジネスモデルの構築、商店街におけるフェリカ
の活用と実証実験の指導
財団法人しまね産業振興財団 徳田大剛氏
フェリカマーケットマーケティング株式会社 木下壮平氏

デジタルコンテンツ化



・デジタルコンテンツの編集方法や各種メディア
変換技術等の実技指導
株式会社ミック 御輿文雄氏
株式会社メディアプラン 矢野守氏
株式会社メディアプラン 加藤晴子氏
・地域映像コンテンツの活用・情報発信の講義
島根県情報政策課 中島哲氏



・コンテンツ制作者に資金調達、流通のアレンジ
メント、著作権の保護などの講義・指導
メディアラグ株式会社 藤井雅俊氏

MediaFLO技術



・携帯端末向けマルチメディア放送を実現す
るためのMediaFLOの技術の講義・実技指導
株式会社クアルコムジャパン 内田信行氏
株式会社クアルコムジャパン 前田修作氏
株式会社クアルコムジャパン 小菅祥之氏



島根大学総合情報処理センター実務的システム開発ラボラトリーに関する要項
(平成18年2月27日総合情報処理センター長決裁)

(目的)

第1 島根大学総合情報処理センター(以下「センター」という。)内に、実社会と結びついた研究教育実践の場として実務的システム開発ラボラトリー(以下「ラボ」という。)を設置し、情報処理に係る課題への取り組みを行なうことを目的とする。

(活動内容)

第2 ラボは、次の各号に掲げる活動を行う。

- 一 情報処理システムの構築や情報サービスの企画・コンサルテーション・啓発等に係る教育及び研究に関すること。
- 二 学生の情報処理技能を認定し、情報処理に係る学内の意識向上に寄与すること。
- 三 その他ラボの目的を達成するために必要なこと。

(体制)

第3 ラボは、地域民間企業等の協力の下、すべての職員及び学生が参加できる体制とする。

- 2 テーマは、学内外の意見及び要請に基づき、センター長が副センター長及び専任教員と協議して定めるものとする。
- 3 ラボに参加しようとする者は、センター長へ別紙様式により申請するものとし、センター長は総合情報処理センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)の議を経て決定するものとする。
- 4 活動遂行に当たっては、ラボ参加者は事前にセンターと機密保持や発明・発見等に係る取り扱いを定めた同意書を交わすものとする。

(組織)

第4 ラボは、次の各号に掲げる者で構成する。

- 一 職員
- 二 学生
- 三 客員研究員及び協力研究員

(雑則)

第5 この要項に定めるもののほか、ラボに関し、必要な事項は運営委員会の議を経て、センター長が定めることができる。

附 則

この要項は、平成18年2月27日から実施する。

実務的システム開発ラボラトリー Q & A

1) 実務的システム開発ラボラトリー (以下「ラボ」と呼びます) って何ですか？

2006年度より総合情報処理センター内に設けられた、実社会と結びついた研究教育実践の場です。その時々技術、課題、流行などを踏まえて幾つかテーマを設定し、学生や教職員の他に、学外の客員/協力研究員の支援を受けて、地域を中心とした場で活躍することができる人材(学生)を育てるとともに、島根から情報技術関連の積極的な情報発信を図ることを目的としています。大学が地域の人々の集う場所(コモン)となることを願っています。

2) 具体的には、どのような活動を想定しているのですか？

新たな市場開拓をにらんだソフトウェアの構築や情報サービスの企画・コンサルテーション・啓蒙が考えられます。また、その活動の過程にあって、企業の第一線で活躍している情報技術者などの協力を得て、講義/セミナーを開催することもあります。

3) 情報関連学部/学科以外の学生ですが、参加にあたっては特別な資格が必要ですか？

いいえ、特にありません。しかしながら物見遊山的な気持ちでの参加は控えてください。実社会で活躍できる実務的・実践的能力を自ら身につけたいといった意識を持つ学生の参加を期待しています。

4) 学生にとっては、どんなメリットがありますか？

学生にとっては具体的なテーマの下に実践的な経験を積むための教育組織であるとともに、事前に情報産業について正しく理解する機会が与えられるという意味で“学内”インターンシップといえます(ただし単位は出ませんので、念のため)。就職先を決めるにあたってのミスマッチを減らすための一助になることはもちろん、実務に長けた能力を磨くことによって就職面で大きなアドバンテージとなるに違いありません。

また、一定の水準を超える技能を修得した学生には資格を与えることを検討しています。その能力を活かし、島根大学を更に魅力のある大学に育てるべく協力してほしいと思っています。

5) 企業にとってのメリットは何でしょう？

大学との新たな連携の形として、共同研究や受託研究に進む前段階として、ラボを活用いただけます。これをきっかけに、もっと気軽に島根大学を知っていただければと思います。また、実務に長けた即戦力として期待できる情報技術者を確保することが期待できます。

6) 産学連携センターとの違いは何ですか？

産学連携センターが教員と企業との研究上のつながりを促進しようとするのに対し、ラボでは学生を主軸に据え、大学と社会の新たな連携の形を模索しようとしています。すなわち産学連携が、大学が担う社会活動のひとつである研究を切り口にして企業と協調しようとするのに対し、大学のもうひとつの責務である教育活動を企業の協力の下に推進しようとするものです。

7) ラボの活動に参加したいのですが？

総合情報処理センター窓口にお越しく下さい。参加にあたって必要な書類をお渡しします。

8) ラボで取り扱ってほしいテーマがあるのですが？

総合情報処理センターにお申し出ください。内容を検討させていただき、ラボの趣旨に沿うと判断したものについては参加者を募ります。